

今年度2回目となるACADE見IC。今回は、ラトヴィア語・ロシア語を研究する堀口大樹先生に、言語学、ロシア・ラトヴィア、そして言語学習などについてお話を伺った。日本人にとってあまりなじみのないロシアとラトヴィア。是非この機会に両国に関心を持ってもらいたい。(真都。)



研究について Исследование



——まずは先生の研究内容について教えてください。

私の専門は言語学です。ロシア語とラトヴィア語を研究しています。両言語を比較するというよりはそれぞれの言語を個別にやっているという感じです。具体的には語の派生をテーマにしています。どういうメカニズムで長い語や表現を一語でまとめて言うか(例えばポケットモンスターを「ポケモン」と呼ぶことのような)、みたいなことですね。接尾辞や接頭辞が研究対象になります。特に社会との関連、社会の新しい現象や重要になったことに関連して新しく生まれた言葉や言葉遊びを、インターネットやSNS、マスメディアから情報収集して研究しています。

あとは借用。日本語もカタカナ語にみられるように英語からの借用が非常に多いですが、ロシア語とかラトヴィア語にもたくさん見られます。そういった借用

語がどのようにロシア語やラトヴィア語で使われているかということも研究しています。他には、ソ連期にバルト三国に移住したロシア人が、ソ連崩壊後にそれぞれの国の国語(エストニア語、ラトヴィア語、リトアニア語)を覚えなくてはならなくなったのですが、そういう人々の言語に関連するアイデンティティなどを、フィールドワークをして研究しています。

——言語学に興味を持った経緯やきっかけについて教えてください。

幼稚園や小学校の頃から、世界のいろいろな国々や異文化が本当に好きでしたね。言葉にも興味があって、世界の国々のあいさつの仕方を見たり、真似したりすることが好きでした。あるときから自分にとって言葉を知ることは「世界を広げる」ことだと思い始めて、フランス語やフィンランド語、そして今の研究対象であるロシア語、ラトヴィア語を学び始めました。その後大学でロシア語を専攻して、それから学問としての言語学を学び始めました。

——言語学を研究することの醍醐味は何でしょうか。

言語って人間の思考とか文化とかの根幹的なものなので、言語を勉強することで、それを話す人たちの考え方や世界観、歴史、社会が見えてきます。学問というものは他の学問とつながりを持っているもので、言語学の場合は文化学、社会学、歴史学、心理学、そして経済学などと親和性がありますから、言語学を研究するだけで視点がものすごく広がるというのが面白いと思います。

——最近言語学について気になったニュースはありますか。

私は飛行機が好きなのですが、機内のアナウンスで「Ladies and gentlemen」というのがありますよね。これは英語ですが、他の言語にも対応する表現が色々あります。これらの表現が、LGBTQと呼ばれる方に配慮して廃止になってきているという現象に興味があります。

人間・環境学研究科

堀口大樹

プロフィール

2007年東京外国語大学卒。同学の大学院やラトヴィア大学留学を経て2014年より岩手大学人文社会科学部准教授。2020年より現職。専門は言語学(ラトヴィア語・ロシア語)。

はみだし すてーじ

おススメの温泉教えてください!

⇒愛媛生まれの自分からしたら、やはり道後温泉ですね!

(「千と千尋の神隠し」の油家のモチーフだと言われている建物や、「坊っちゃん」の舞台になった場所があります;編)

(理・4 一沫模様)



准教授

ロシア・ラトヴィア基礎データ

Основная информация о России и Латвии



- ・ロシア連邦（ロシア語名 Российская Федерация）
首都：モスクワ
人口：約 1 億 5 千万人（2021 年）
公用語：ロシア語（なお連邦を構成する共和国は、ロシア語とは別に自らの民族の言語を公用語として定めている）
民族：ロシア人が主だが、タタール人やウクライナ人など 160 以上の民族が住んでいる
- ・ラトヴィア共和国（ラトヴィア語名 Latvijas Republika）
首都：リガ
人口：約 190 万人（2021 年）
公用語：ラトヴィア語
民族：ラトヴィア人が約 6 割を占めているが、ロシア人も 3 割近く住んでいる

『研究に必要なのは、自分の専門分野に対しての好奇心、こだわられること、コツコツできること、他の勉強をしても自分が興味を持っているものに結び付けられること』

——北欧・東欧を対象に研究することの醍醐味は何ですか。

日本人は「ヨーロッパ」と聞くとドイツやイタリア、フランスなどしか思い浮かばないことが多いと思います。だからヨーロッパの残りの半分、北欧や東欧を研究することで多くの人に見えていないもの、多くの人が知らないものをつかんで理解できるというのが面白いかなと思います。

——研究者に向いているのはどんな人だと思われますか。

説明するにあたって「勉強」と「研究」を分けて考えます。まず「勉強」が好きな人が「研究」をやろうと思うかっていうと、そういうわけではありません。逆

に「勉強」が苦手だけど「研究」ができるという人もいると思うんです。で、「勉強」は知識を『得る』ことで、「研究」っていうのは知識を『つくる』ということです。自分で課題を見つける、自分の問いと答えを探すというのが「研究」だと思おうので、自分で問いを作って答えに向かえる人が研究者に向いているのかなと思います。そしてそれができるようになるために必要なのは、自分の専門分野に対しての好奇心とか、こだわられること、コツコツできること、他の勉強をしても自分が興味を持っているものに結び付けられることだと思います。



経歴について Биография



——大学生時代の思い出を教えてください。

勉強関係と、そうでないものがあります。まず勉強じゃない方ですが、私はフィギュアスケート部とロシア語劇のサークルを掛け持ちしていました。運動系も文化系も両方やっていたということで、充実していてとても楽しかったですね。2つのサークルの間に接点や共通点はないのですが、自分の人間関係や価値観が広がったかなと思います。

勉強もかなり一生懸命やっていました。もちろんロシア語とか言語は好きだったので、ストイックに勉強していました。

はみだし
すてーじ

涼しくなったので今度こそ京都観光します。

⇒いいですね。紅葉狩りとか行かれたのでしょうか？ 今季節だと雪の京都も綺麗ですよ

（教・院 とけい）

（ちなみに私のおすすめは三千院です；編）



▲お仕事をされる堀口先生
傍らには英語で書かれたスラヴ語の本が

レンガみたいな分厚さのロシア語の辞書をいつもカバンに入れていましたね。電車の中とかでも寸暇を惜しまず勉強に励んでいました。言語だけでなく社会にも関心があって、ロシア語の教職免許のほかに中学の社会、高校の地歴公民の免許も取りました。だから大学での履修は、言語系も社会系もどっちも取らなくてはならなかったのだから大変だったんですけど、楽しかったですね。

——その後どうして研究者になろうと思ったのですか。

元々言語を使う仕事にすごく憧れていました。商社などへの就職、通訳者や翻訳者などですね。大学院生のときは実際に通訳・翻訳のアルバイトをやりました。フリーランスの通訳・翻訳の仕事も視野に入れていたのですが、なかなか安定しない職業だと思い、大学教員になることを考え始めました。論文を書いたり研究発表をしたりするのが向いているのか、そもそも自分にできるのか悩んだ時期もあったのですが、やはり言葉を研究したい、言語を大学で教えたいという思いが強くなってこの道を選んだという感じがすね。

ロシア・ラトヴィア について



Россия и Латвия



——ロシアの魅力は何ですか。

「〇〇大国」と呼ばれるような優れた分野をたくさん持っているところですよ。「バレエ大国」、「芸術大国」、「オペラ大国」、「スポーツ大国」、「宇宙開発大国」、あとは「軍事開発大国」。伊達にでかかないですね。また、やはり今でも国際社会を牛耳る独特の存在感がありますから、見ていてとても面白い。そういった国が日本の隣にあるというのなかなかすごいことだなと思います。

——ロシア語の魅力は何ですか。

ロシア語のことをあまり知らない方からすると、やはり文字がエキゾチックに見えます。私もロシア語に興味を持ったきっかけは、「この文字が書けたり、読めたりしたらカッコいいな」と思ったことでした。あとは本当に主観的ですが、聞いていて心地が良い言語だなと思います。そして文法は非常に複雑です。それが嫌だという人はいるけれども、私にとっては魅力的です。

——ロシアのおすすめスポットを教えてください。

ロシアには100を超える民族が住んでいます。私たちと同じような顔立ちをしたアジア系の人々も住んでいます。彼らが住む地域の中でも私が行ったことがあるのはカルムイク共和国で、ヨーロッパ唯一の仏教国といわれるところです。ロシア民族のロシアとは別のロシアを知ることができるのでおすすめです。

カルムイク共和国

(ロシア語名 Республика Калмыкия)

カルムイク共和国とは、ロシア連邦南西部に位置する、モンゴル系民族のカルムイク人が多く住む共和国（ロシア民族以外の民族が住み、ある程度の自治が認められている地域のことをロシアでは「共和国」と呼ぶ）である。



▲カルムイク共和国にある、仏陀釈迦牟尼金色堂

——最近北方領土問題があって日露関係があまり良くありませんが、何か日露関係を改善させる方法は無いのでしょうか。

日露関係が険悪なのは確かに問題なのですが、私たち市民に出来ることは、政治面ではほとんど無いと思います。もちろん問題について考えることはできますが、具体的に何か行動に移すというのは難しいです。だから私たちにできるのは、相手の文化や社会にお互い関心を持つことかなと思います。例えばロシア人は日本のアニメや寿司が大好きです。だから私たちも、ロシアの料理やスポーツ、歴史などに関心を持つことが大事かなと思います。

——政治的には難しいから文化で寄り添っていくということですか。

はい。もちろん政治のことを勉強するのは大事です。しかし、ちょっと諦めも

入っているのですが、政治的関係を変えていくというのはなかなか私たちには難しいんじゃないかなと考えます。

——ロシア関係で特におすすめの本を教えてください。

ロシアは「文学大国」でもあって、もちろんドストエフスキーとかトルストイとか大学生に読んで欲しい本はたくさんあるのですが、あえて紹介するならばスヴェトラナ・アレクシエーヴィッチというベラルーシの作家の本がおすすめです。2015年にノーベル文学賞を受賞したドキュメンタリー作家で、ソ連の第二次世界大戦とか、チェルノブイリ原発事故とか、アフガン戦争とか、ソ連の負の歴史といわれているものに焦点を当てて、一般の人から証言を集めてそれを作品としてまとめるというのが特徴です。

ドストエフスキーやトルストイの作品より、このようなドキュメンタリー作品の方が読みやすいと思います。文学作品ってどうしても長くなるので、「罪と罰」のようなロシア文学を読むのは少し体力がいるんですよね。でもドキュメンタリーの方はもう少し軽く読めるし、それに日本社会に当てはまるようなところもありますのでオススメです。

——堀口先生はアーティスティックスイミングや新体操がお好きだそうです、先生が特に注目していらっしゃるロシア人選手を教えてください。

いつの時代も素晴らしい選手がありますが、あえて選手じゃなくてコーチの方を紹介したいと思います。それぞれ有名なコーチがいて、アーティスティックスイミングだとボクロフスカヤ、新体操だと

ヴィネルです。両者とも、ものすごいスパルタ指導を行っています。

選手がどれだけ変わってもロシアが世界最高レベルでありつづけるのは、私はコーチの存在が大きいと思います。コーチってなかなか光が当たらない立場ですけども、是非注目して欲しいですね。

——では次にラトヴィアの魅力について教えてください。

ラトヴィアは小さな国です。でも海、森、湖が豊かで私はとても好きです。また人口が少ないので静かです。だから時間がゆっくり流れているような感じがしますね。それと、人も素朴で優しいです。

——ラトヴィア語はあまりメジャーな言語ではないと思いますが、学びはめたきっかけは何ですか。

私は幼い頃から異文化や海外の国に関心がありました。高校生のとき、学校帰りに本屋で「地球の歩き方」というガイドブックをみて「こういう国があるんだ、こういう街があるんだ」といつもわくわくしていました。ある日「地球の歩き方バルトの国々」の中に、ラトヴィア人の子供に日本語を教えている学校の記事を発見して驚きました。「日本からこんなに離れたところで、日本に関心を持ってきている人がいるんだ。日本語を勉強してくれている人がいるんだ」と感動しました。その学校の住所が書かれてあったので、日本語で手紙を書きました。「どうしてラトヴィアにいる皆さんが日本語を勉強しているのですか？」と尋ねてみました。そしたら日本語でお返事が届きました。その学校で勉強している同い年くらいのラトヴィア人の子からです。そ

れから文通が始まりましたね。

当時はインターネットもあまり使われていなかったし、メールもなかったので、手紙を実際に送り合うしかない時代だったけれども、本当に思い出深いですね。ロマンチックじゃないですか？紙の匂いも日本の紙とは少し違うんです。だからくんくん嗅いだりしていました（笑）

文通をはじめたとき、もう既にロシアや旧ソ連の国々には関心がありました。なので、そこからラトヴィアとかラトヴィア語に興味を持って、高2のときにラトヴィア語を勉強しはじめました。東京の輸入書などを扱っている本屋で、英語で書かれたラトヴィア語のカセットテープ付きの教科書を買って、それを使って勉強しはじめました。

——ラトヴィア語を学ぶ面白さはどこにありますか。

ラトヴィア語はインド・ヨーロッパ語族という言語の大家族の中の1つで、ラテン語やサンスクリット語など古典語に近い複雑な文法を残していると言われており、そこが魅力です。また周辺の国々の言語、例えばドイツ語やロシア語の影響も受けていて、そこが面白いかなと思います。あとは小さい国だし話者も少ないので、外国人がその言語を勉強するとラトヴィアの人々はものすごく喜んでくれますね。そういうやりがいもあります。

——ラトヴィアは20万に上る数の民謡が存在する音楽大国だそうですね。

ラトヴィア人を動詞で例えると、「歌う」であると言われています。ラトヴィアにはこのような歌詞を持つ民謡があります。「歌いながら生まれ、歌いなが

『歌いながら生まれ、歌いながら育った。歌いながら一生を全うした。』

ら育った。歌いながら一生を全うした」。この歌詞はとても有名ですね。

——ロシアやラトヴィアに住んだ時、生活様式の違いで困ったこと、驚いたことはありますか。

日本って花を贈る文化がありません。でもロシアやラトヴィアは花を贈ることが非常に身近な文化です。24時間営業している花屋があって驚きました。私はラトヴィアで一度、博士論文の審査会を公聴したことがあります。このような会でも合格した人に花束を渡すという文化があるんですよ。来た人はみんな花束を持ってきていたのですが、それを知らなかった私は手ぶらで来てしまってかなり焦りましたね。「近くの花屋に行って今から花を買ってくるべきなんじゃないか」とか考えてしまい、発表されている論文の内容が全く頭に入りませんでした（笑）結局、合格者にはとびきりの笑顔で「おめでとう！」と言って事なきを得たのですが、それ以来最寄りの花屋をチェックしたり、友達の家に行く際に花を持って行ったりするようになりましたね。



▲インタビュー中の堀口先生

言語学習について

Изучение иностранных языков



——外国語をしゃべれるようになるコツを教えてください。

普段から教科書や単語帳の例文を音読することがとても大事だと思います。自分が一度も発音したことがない単語が、実際におしゃべりするときに自分の口から出てくることはないと思います。だから私は、言葉はうるさく勉強しようと言っています。図書館で静かに勉強するのもいいんですけど、声を出して勉強することがとても大事だと思います。その言語の話者と話すというのも最高のトレーニングです。ですが、もしそのようなタイミングがなくても、独り言で良いので自分が今考えていることとかをぶつぶつ喋り続けるというのが良いと思います。

また、外国語で自己紹介が出来るようになっておくことはとても大事です。自分の名前、出身地、どこに住んでいるか、何が好きか、何が嫌いか、自分の趣味、何を勉強しているか、みたいな。自分のことを語るの、何語であっても、世界中どこに行っても必ずやらなくてはならないことです。自分が自分である限り、自分のことを話せるのは自分だけです。他の人は誰もあなたのことを代わり

に話してはくれません。だからその準備をするために、自分の紹介文はしっかり言えるようにすることが大事だと私は思います。

あとは日本のことを知っておくことが必要ですね。海外に行くとき私たちは日本代表として見られるので、日本のことをたくさん聞かれます。日本人の平均月収はいくら？とか、年金はどれくらいもらえるの？とか、何歳からもらえるの？とか、ですね。外国語を勉強するときって、大抵その外国語が話されている国や地域のことに関心があるわけですから、日本のことが意外と盲点なんです。海外に興味はあるけれども、実は日本のことをあまり知らなかったという人って結構多いと思うんです。海外に行っている人から日本のことを聞かれてはじめて、自分が日本の社会や歴史についていかに無知だったか、いかに無関心だったかということが分かると思います。だから外国語を喋れるようになりたいならば、日本のことを海外の人に説明出来るようにしておくことが大事だと思います。

——難しい外国語の文章を読むコツはありますか。

練習が大事です。ではどういうテキストを練習として読むかというのが問題なのですが、文学作品とかを読むのは実は

『言葉はうるさく勉強する』

『学んでいる外国語に、毎日少しでも触れることが大事』

はみだし
すてーじ

衆議院選挙に行ってきた！（「京大生⇒選挙に行く」は真か偽か？）
⇒僕も10月31日、行ってきました！

（理・1 次は参院選）
（僕の周囲の人大体行ってなさそうなので、たぶん偽ですね；編）

堀口先生おすすめの作家
米原万里

(ロシア語名 Ёнэхара Мари)

ロシア語通訳者・エッセイスト・ノンフィクション作家・小説家。代表作は『オリガ・モリソヴナの反語法』『魔女の1ダース』など。堀口先生曰く「異文化や異文化理解について学べて、外から日本を理解するのに最適な作品がたくさんある」とのこと。



とても難しいです。それよりはインターネットのニュース記事や新聞、時事問題を扱ったテキスト、インタビュー記事などの方が読みやすいと思います。だからそういったものから読むのがおすすめです。もちろんそれらを読むためには文法や語彙の知識が大事です。また、読むテキストが扱っている事柄についての知識も必要です。知識があらかじめあった方が、知らない単語が出てきてもある程度意味を類推できます。

あとこれもよく授業で言うのですが、学んでいる外国語が話されている国について、好きなものや好きな人を見つけるといいです。例えば有名な俳優とかスポーツ選手とかのインタビュー記事を読むというのがとてもオススメです。

『コロナ禍でも、日本だけでなく世界に目を向けて』

———その他、語学学習について京大生にアドバイスはありますか。

やはり1日15分でも言語に触れることが大事だと思います。ちょっと見たり聴いたりするだけでもいいので。毎日少しでも触れるというのがとても有効です。特に現在はSNSが非常に発達していますので、積極的に使うと良いと思いますね。例えば、好きな海外の俳優とかアーティストとかのSNSをフォローすると、毎日のようにその言語が目に入るようになります。あとは海外のメディアをフォローすると、ニュースが外国語で自分のタイムラインに入ってくるようになります。現在世界はつながっているので、日本で報道された世界的なニュースやローカルなニュースが、海外のメディアでもその国の言語で発信されているわけです。そういう場合だと、たとえその外国語を読むのに不慣れでも日本語で得た知識で補って読むことである程度何が書かれているか分かります。



京大について

Киотский университет



———京大の良いところはどこだと思いますか。

私はこの大学に赴任してから1年半しか経っていませんし、コロナ禍の影響もあってオンライン授業だけだと学生さんのことが見えてきにくいので、なかなか難しい質問です。ですが、多様な考えの学生さん、多様な関心を持つ学生さんがいるというのは良いことかなと思います。

———最後に京大生にメッセージをお願いします！

今はコロナの影響でなかなか海外旅行をするのが難しい時代になってしまいましたが、是非日本だけでなく世界に目を向けて欲しいですね。世界のことを見ないと日本のことも見えてこないと思いますので。今は海外に行って実際に目で見て、肌で感じるというのが本当に難しく残念なのですが、それでも世界に関心を持って欲しいなと思います。そうやって、グローバルな視点とローカルな視点を持った人になって欲しいですね。

———本日はお忙しい中ありがとうございました。



▲ 堀口先生とマトリョーシカ

はみだし
すてーじ

冬には社会にはみ出ちゃってるだろうが。
⇒もうそんな季節ですか……。早いですね

(工・院 smily)
(つい最近2021年になった気がする；編)